

総合的病害虫・雑草管理（IPM）の実践方法

（1）IPMの基本的な実践方法

第1段階 予防的措置

病害虫・雑草が発生しにくい環境を整備する。

- ① 病害虫・雑草の防除では、発生する前に予防することが重要です。
耕種的防除（作型の検討、排水対策、抵抗性品種の導入、伝染源の除去等）をできるだけ徹底して行う。
- ② 発生が見込まれる病害虫・雑草は、予防防除に努める。

第2段階 判断

病害虫・雑草の発生状況を把握し、防除が必要であるか、いつ防除するのが適当か判断する。

- ① 日ごろから、ほ場の状況を入念に観察し、虫めがね等を利用して、発生している病害虫の種類や密度を把握しましょう。
- ② 発生予察情報を入手しましょう。

第3段階 防除

防除が必要であると判断したら、最適な防除方法を選択する。

- ① 防除手段は、生物的防除、物理的防除、化学的防除など様々です。
コスト、労力及び防除効果を考えて、最適な方法を選びましょう。
- ② 化学農薬を使用する場合は、飛散しにくい剤型及び選択性の高い農薬の使用を心掛け、飛散しにくい方法で散布しましょう。

(2) IPM実践指標の活用方法

IPM実践指標とは、IPMをどの程度実践しているか確認するためのものです。

IPM実践指標を基に、実践していることは何か、不足していることが何か、改善できることがあるかを確認・評価します。

- ①作業前に、昨年度の実施状況をチェックして、点数を数えて下段に合計数を記入する。
- ②昨年度実施できなかった項目について、今年度は実施できるようにする。
- ③収穫作業終了後に、今年の実施状況をチェックして、点数を数えて合計数を記入する。
- ④来年度の実施目標を立てる。
- ⑤毎年改善し、全ての項目にチェックができるようにしていく。

IPM指数を活用し、IPMの実践レベルを評価

IPM指数＝実施した管理ポイントの点数の合計÷当該年度の病害虫の発生状況などから対象となる管理ポイントの合計点数の合計×100

IPM指数	評価結果
指数80以上 (実践レベルが高い)	A
指数60以上80未満 (実践レベルはやや高い)	B
指数40以上60未満 (実践レベルは中程度)	C
指数40未満 (実践レベルは低い)	D

(3) 実践指標解説書の追加

IPM技術(項目)において、生産者が項目を理解しやすいように解説書を作成し、より取り組みやすく表記しています。

品目ごとにポイントとなる項目について、技術の原理(理由)、新技術(資材)の紹介、導入する上での留意点ほかを紹介しています。

○作成したIPM実践指標の品目 *下線部：H27.12月追加品目

水稲・りんご・なし・ぶどう・もも・あんず・すもも(プルーン)・おうとう・ブルーベリー・施設トマト・施設いちご・キャベツ・レタス・アスパラガス・カラーピーマン

IPM実践指標は、長野県ホームページに掲載しています。

【アドレス】

<http://www.pref.nagano.lg.jp/nogi/sangyo/nogyo/kankyo/ipm.html>